

秋を越え初冬になりました。ますます日が暮れるのが早くなります。アドベントに入った今朝は夕方の出来事です。

### 1. 日が沈み (1章32節)

- ①夕方に 私達の教会には夕礼拝がないのであまり讃美歌34番から51番は歌いません。しかし、良い歌詞や旋律も多いです。「日暮れて四方は暗く、わがたまはいとさびしよるべなき身のたよる主よともにやどりませ」(讃美歌39)。夕方になって日が沈み、さびしくなる人が少なからずいるでしょう。だから繁華街はにぎわうのです。しかし、いかに暗くて頼る所がないに人にとっても、主なる神こそ頼ることができます。
- ②病人たち ここに登場するのが病人たちです。人は病を持つと、死を意識します。人生には終わりがあることを考えます。もう一方では、早く治りたいと願うのです。周りの者達も一緒になって、治療を考えます。2000年前のパレスチナにも医者はいました。しかし、治りにくい病気も多くありました。また、悪霊につかれた者たちについては21～26節にも出てきましたが、悪霊に支配され自分を制御できない状態です。
- ③イエスのもとに 心ある人々がそれらの病人たちや悪霊につかれた者たちをイエスのもとにつれてきたのです。彼らは、夕刻を過ぎ安息日が終わったことを確認してやってきたと考えられます。イエスのところい連れてきたのは大正解でした。ところで、私達が教会に友人を連れて来るとします。その時に思いつくのは、牧師やクリスチャンの友人を紹介することでしょう。また、単に礼拝というところに連れてくるということを考えることでしょう。しかし、私達がまず考えるべきことは、その方にイエス・キリストのもとにお連れし、その方を紹介するという意識です。

### 2. 町中の者が (1章33節)

- ①町中の者が 町中の者といえば、町にいる全員とも読めないこともない。しかし、当時でもカペナウムという町には相当数の人々が住んでいましたから、違いましょう。町の多くの人々がやってきたということでありましよう。そのように言いたくなるほどの多くの人々がやってきているのです。
- ②戸口に集まって これは前段からの続きであることを考えると、シモンとアンデレの家であると考えて良いでしょう。その家を取り囲むようにして、多くの人々が病人や悪霊につかれた人々を連れてきたのです。大変な騒ぎだったでしょう。誰も先を争ってイエス様に面会させたかったことしょう。また、物見高い人々がいたことも確かでしょう。こんな時に、日本では電車に乗る時にも整列しますね。あれはこの国の人々の得意なところですよ。

### 3. 多くの人々をいやし (1章34節)

- ①病気を直し 医者が午前中の三時間に見ることのできる人数は20～30人でしょうか。イエス様が次々にその病気の者たちの患部に手をあてて癒されたとして、50人～100人ぐらいの病気をいやされたかもしれません。病気の種類は多種多様であったでしょう。主は病の根幹に癒しを与えてくださったのです。盲信を勧めるわけではありませんが、癒し主を心から信じて癒しを熱心に求めて良いのです。
- ②悪霊を追い出し 悪霊はサタンの兵です。人間の心や魂を支配して、悪い思いを持たせて、平和をこわし、いさかいをもたらそうとします。否定的な思いを生じさせ、疑いの心を深めさせます。本人も自らを制御できずに、主への罵りを大声でなしたりするのです。主はその人のうちに宿る悪霊を主は追い出されたのです。
- ③悪霊がもの言うのを許さず 主は悪霊がものを言うのをお許しになりませんでした。そこで、彼らはものを言うことができずでした。なぜですか。それは「彼らがイエスをよく知っていたからである」とあります。脚注には「イエスがキリストであることを知っていた」とあります。つまり、霊なる存在であればこそ、悪霊はイエス様のご本質をよく知っていたのです。イエスが救い主であることを、彼らは理解していたのです。霊的に鈍感な人間より、余程キリストを理解していたのです。だから、悪霊は聖霊の支配が強まることを恐れていたのです。

**【結論】** お医者さんには働き過ぎと思われる方が少なくありませんね。八面六臂の活躍をする場合もあります。イエス様の多忙さは相当のものです。愛に基づくお働きは一人一人の魂に届いていたことでしょう。主は病気の人々や悪霊につかわれている人々を、本当にあわれんでくださいました。やってくる人々の必要を満たしてくださったのです。病気に苦しむ人は、肉体的にも精神的にも、いやされたいという強い願いがあります。悪霊につかわれている人は、そのことのゆえに肉体も精神も自由でなかったのです。イエスがキリスト(救い主)であることを敏感に感じて、キリストに反対する悪霊がその人を支配していたからです。その人から、主は悪霊を追い出してくださいました。あなたも、何らかの問題や課題を抱えながら生きているでしょう。悩んでいるかもしれません。苦しんでいるかもしれません。のたうち回っているかもしれません。そこに手をおいてくださるのがイエス・キリストです。アドベントを迎えたこの朝に、あなたの生きる現場に働きかけてくださる、主イエスのもとに行きましょう。イエス・キリストによる救いを信じていきましょう。